

峰のひかり

発行人
 社会福祉法人 七峰会
 理事長 成田 梧朗
 〒036-8356
 青森県弘前市大字下白銀町21-8
 電話 (0172) 33-8861
 F A X (0172) 33-8862

『トレーニングホーム竹谷』開設!!



(こ)ちよいい) あじましいい生活を目指して

拓心館グループの利用者10名を雇用していただいている社長さんより、会社近くにある社長さん所有の一軒家を拓心館グループに貸してもよいという大変ありがたいお話をいただき、このたび、トレーニングホームとして活用させていただくことになりました(今年8月中旬に開始の予定!)

今回提供していただく住宅は、築10年程経っていますが、とてもしつかりした作りで、6畳以上の広い部屋が5つもある大変りっぱなものです。利用者には、もちろん個室が提供されるということもあって、皆引越しを心待ちにしています。

ところで、拓心館グループでは現在の認可を受けたグループホーム5か所に22名、市内のアパートを借りて生活している人が2か所に5名、計27名の方が地域生活の移行を果して暮らしています。そのように、地域の中で暮らす仲間をさらに増やしていくことが施設本来の目的ですが、例えば、法人自主運営のグループホームやアパートを利用した生活の場の新設を計画し、不動産屋や地域を回っても、住宅や部屋をなかなか貸してもらえないのが実情で、常日頃より大変歯がゆく思っ

いることの1つとなっています。

このような時にいただいた今回のお話は、地域生活への移行を目指す利用者にとつて、本当に貴重な生きた体験ができるチャンスになることと思います。また、それは支援する職員にとつても、一人ひとりが必要なような課題を抱え、今後どのようなスキルやマナー等の習得が必要なのか再確認し、施設の中での指導にフィードバックしていける機会になると確信しています。

今回は、まずは男性4名での開始を考えていますが、そのうちの一人は、今年3月末日で退職した71才になる方です。その方は更生施設を経て通勤寮に入所しましたが、若い時は在宅で働きながら生活していた経験もあり、「いつかはまた、地域で暮らしたい」という希望を持って一生懸命仕事をしてきました。そういうふうには頑張ってきた。そういう方だからこそ、余生のいくらかでも本人の望む地域の中で、あじましく生活してもらいたいと考えています。そして、このトレーニングホームを利用して、一人でも多くの利用者が一日でも早く地域の中で自分らしく生活できるよう、職員一丸となって支援していきたいと思っ

峰のひかり

発行人
社会福祉法人 七峰会
理事長 成田 梧朗
〒036-8356
青森県弘前市大字下白銀町21-8
電話 (0172) 33-8861
FAX (0172) 33-8862

『トレーニングホーム竹谷』開設!!



（一）こちよこ
あじまじい生活を目標として

拓心館グループの利用者10名を雇用していただいている社長さんより、会社近くにある社長さん所有の一軒家を拓心館グループに貸してもよいという大変ありがたいお話をいただき、このたび、トレーニングホームとして活用させていただくことになりました（今年8月中旬に開始の予定！）。

今回提供していただく住宅は、築10年程経っていますが、とてもしっかりした作りで、6畳以上の広い部屋が5つもある大変りっぱなものです。利用者には、もちろん個室が提供されるということもあって、皆引越しを心待ちにしています。

ところで、拓心館グループでは現在、国の認可を受けたグループホーム5か所に22名、市内のアパートを借りて生活している人が2か所に5名、計27名の方が地域生活の移行を果して暮らしています。そのように、地域の中で暮らす仲間をさらに増やしていくことが施設本来の目的ですが、例えば、法人自主運営のグループホームやアパートを利用した生活の場の新設を計画し、不動産屋や地域を回っても、住宅や部屋をなかなか貸してもらえないのが実情で、常日頃より大変歯がゆく思っ

いることの1つとなっています。

このような時にいただいた今回のお話は、地域生活への移行を目指す利用者にとって、本当に貴重な生きた体験ができるチャンスになることと思えます。また、それは支援する職員にとっても、一人ひとりが今のような課題を抱え、今後どのようなスキルやマネー等の習得が必要なのか再確認し、施設の中で指導にフィードバックしていきける機会になると確信しています。

今回は、まずは男性4名での開始を考えていますが、そのうちの一人は、今年3月末日で退職した71才になる方です。その方は更生施設を経て通勤寮に入所しましたが、若い時は在宅で働きながら生活していた経験もあり、「いつかはまた、地域で暮らしたい」という希望を持って一生懸命仕事をしてきました。そういうふうな頑張りが生きてくれた方だからこそ、余生のいくらかでも本人の望む地域の中で、あつましく生活してもらいたいと考えています。

そして、このトレーニングホームを利用して、一人でも多くの利用者が一日でも早く地域の中で自分らしく生活できるように、職員一丸となって支援していきたいと思えます。

仕事探し 仕事選び

社会福祉基礎構造改革に伴い、地域生活の推進が大きくクローズアップされました。これは、施設の入所利用者を地域社会へ帰そう—ということを指し示します。

でも、そのためには当然のことながら、経済的な問題が生じて来ます。年金だけでは生活が成り立たず、施設から出られない最大のネックになっています。例えば知的障害者のグループホームには、仕事を持っている人だけが住めるという条件がついていました。お金がかかるからです。誰でもが住みたいところに住みたい人と住む、という基本に戻って、就労条件は撤廃されましたが、仕事に就いて、ある程度の所得がなければ実現できないのが現状です。拓心館グループでは、このような背景を踏まえながら、雇用と就労のバックアップ、生活安定の支援、地域生活への移行を進めてきました。

さて、求職活動が始める時、私たちは何から始めるでしょう。「○○の仕事に就きたい」「△△をやってみよう」と言えるのは、ごく一部の人のみです。それも以前の経験に照らして、過去をなぞるものである場合がほとんどです。仕事を持つ、という、人生の大きな出来事についても、イメージに乏し

い彼らの選択肢は、第一歩から狭いものであるわけです。加えて希望を言えないにしても、その仕事に就けるといって保証は一切ありません。もちろん健康者といわれる人たちにしても、希望どおりにいくことの方が少ないに違いなく、「どつちも同じだよ」と思われるかもしれません。でも、構造的な不況のもと、利益優先の企業には、賃金に見合った労働をできるのが必須条件となっており、障害者の門戸はさらに狭められているのも事実です。

ハローワークや事業所を回り、つてを辿ったり、関係機関と連携をとるなどしてようやく実習先を見つけ、体験した上で本人の意見を聞く、という形で今は行っています。が、実際には実習で終了となる場合も多く、また、就職が許されれば本人も自動的に受け入れるため、偶然のように仕事が決まります。

一人ひとりの適性を考えれば、色々な実習の機会があり、その中から本人が選んで決める、というのが理想です。そしてなによりも理解者がすぐ近くにいて、事の善し悪しを教えてもらえる環境が最も大切なことと思います。この4月から始動した「津軽障害者雇用支援センター」の機能と併せ、今後も現場からの声を大きく上げて、社会へのアプローチを続けたいと考えています。

七峰会後援会コーナー

猛暑にも負けない 納涼祭の楽しい一とき

—サンアップルホームの様子を通して—

「第14号峰のひかり」でお知らせした通り、山郷館・旭光園・サンアップルホームの納涼行事は予定通り、しかし盛會裡に終了出来ず、それぞれの施設利用者・ご家族の方々が、そして後援会の沢山の会員の方々が自主参加されて楽しい交歓の時を過ごしていただきました。

写真は、サンアップルホームでのものです。

サンアップルホームは、今年が15回目の行事でした。ここには地域の青年団体が、毎年応援にかけつけてくれて、「まつり」の用意や後片付けまでボランティアしてくれています。

旭光園・山郷館も地域交流が深く、利用者と共に交歓し合ひ、楽しみ合ひ—とときで、後援会員の参加を歓迎してくれています。

開会の挨拶をする佐藤家族会長
参加された後援会々員の皆さん方

総合支援	知的障害者援護	身体障害者援護	指定介護老人福祉	居宅介護支援事業
弘前市委託事業 身体障害者相談支援事業 弘前市障害者生活支援センター 障害者ケアマネジメント推進事業 青森県指定 津軽障害者雇用支援センター TEL 82-4520	拓心館 地域生活援助事業 生活自立訓練事業 地域生活支援センター 勇心学園 旭光園 自活訓練事業 心身障害児(者)短期間入所事業 心身障害児(者)施設地域療育事業 (巡回療育相談事業)	山郷館 身体障害者短期入所事業 山郷館デイサービスセンター 山郷館訪問介護センター 旭光園 通所相互利用事業 TEL 97-2211 TEL 97-2131	サンアップルホーム サンアップル短期入所生活介護センター サンアップルホームデイサービスセンター サンアップルヘルパーセンター グループホームアップル (痴呆対応型共同生活介護) 弘前市委託事業 サンアップル在宅介護支援センター TEL 97-2131	山郷館居宅介護支援センター TEL 97-2941 サンアップル居宅介護支援センター TEL 97-2131

仕事探し 仕事選び

社会福祉基礎構造改革に伴い、地域生活の推進が大きくクローズアップされました。これは、施設の入所利用者を地域社会へ帰そう……ということを示します。

でも、そのためには当然のことながら、経済的な問題が生じて来ます。年金だけでは生活が成り立たず、施設から出られない最大のネックになっていきます。例えば知的障害者のグループホームには、仕事を持っている人だけが住めるという条件がついていました。お金がかかるからです。誰でもが住みたいところに住みたい人と住む、という基本に戻って、就労条件は撤廃されましたが、仕事に就いて、ある程度の所得がなければ実現できないのが現状です。拓心館グループでは、このような背景を踏まえながら、雇用と就労のバックアップ、生活安定の支援、地域生活への移行を進めてきました。

さて、求職活動を始める時、私たちは何から始めるでしょう。「○○の仕事に就きたい」「△△をやってみよう」と言えるのは、ごく一部の人だけです。それも以前の経験に照らして、過去をなぞるものである場合がほとんどです。仕事を持つ、という、人生の大きな出来事についても、イメージに乏し

い彼らの選択肢は、第一歩から狭いものであるわけです。加えて希望を言えたにしても、その仕事に就けるとい保証は一切ありません。もちろん健康者といわれる人たちにしても、希望どおりに行くことが少ないに違いなく、「どっちも同じだよ」と思われるかもしれない。でも、構造的な不況のもと、利益優先の企業には、賃金に見合った労働をできるのが必須条件となっており、障害者の門戸はさらに狭められているのも事実です。

ハローワークや事業所を回り、つてを辿ったり、関係機関と連携をとるなどしてようやく実習先を見つけ、体験した上で本人の意見を聞く、という形で今は行っています。が、実際には実習で終了となる場合も多く、また、就職が許されれば本人も自動的に受け入れるため、偶然のように仕事が決まります。

一人ひとりの適性を考えれば、色々な実習の機会があり、その中から本人が選んで決める、というのが理想です。そしてなによりも理解者がすぐ近くにいて、事の善し悪しを教えてもらえる環境が最も大切なことと思います。この4月から始動した「津軽障害者雇用支援センター」の機能と併せ、今後現場からの声を大きく上げて、社会へのアプローチを続けたいと考えています。

七峰会後援会コーナー

猛暑にも負けない 納涼祭の楽しい一とき

サンアップルホームの
様子をを通して

「第14号峰のひかり」でお知らせした通り、山郷館・旭光園・サンアップルホームの納涼行事は予定通り、しかし盛會裡に終了出来て、それぞれの施設利用者・ご家族の方々、そして後援会の沢山の会員の方々が自主参加されて楽しい交歓の時を過ごしていただきました。

写真は、サンアップルホームのもので



開会の挨拶をする佐藤家族会長



参加された後援会々員の皆さん方

サンアップルホームは、今年が15回目の行事でした。ここには地域の青年団体が、毎年応援にかけつけてくれて「まつり」の用意や後片付けまでボランティアしてくれています。

旭光園・山郷館も地域交流が深く、利用者と共に交歓し合い、楽しみ合う一ときで、後援会員の参加を歓迎してくれています。



<p>総合支援</p> <p>弘前市委託事業 身体障害者相談支援事業 弘前市障害者生活支援センター 障害者ケアマネジメント推進事業 TEL 31-24400</p> <p>青森県指定 津軽障害者雇用支援センター TEL 82-4520</p>	<p>知的障害者援護</p> <p>拓心館 地域生活援助事業 生活自立訓練事業 地域生活支援センター 勇心学園</p> <p>光園 自活訓練事業 心身障害児(者)短期間入所事業 心身障害児(者)施設地域療育事業 (巡回療育相談事業)</p> <p>TEL 96-2331</p>	<p>身体障害者援護</p> <p>山郷館 身体障害者短期入所事業 山郷館デイサービスセンター 山郷館訪問介護センター TEL 97-2211</p> <p>旭光園 通所相互利用事業 TEL 57-5155</p>	<p>指定介護老人福祉</p> <p>サンアップルホーム サンアップル短期入所生活介護センター サンアップルホームデイサービスセンター サンアップルヘルパーセンター グループホームアップル (痴呆対応型共同生活介護) 弘前市委託事業 サンアップル在宅介護支援センター TEL 97-2131</p>	<p>居宅介護支援事業</p> <p>山郷館居宅介護支援センター TEL 97-2941</p> <p>サンアップル居宅介護支援センター TEL 97-2131</p>
--	--	--	--	---